

第7回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：平成26年9月19日（金） 午前10時30分～午後1時10分

場所：京丹波町中央公民館3階 大会議室

1. 開会

⇒事務局：前回の会議の中で、町として人口を増やす施策があるかどうかのご質問をいただいたが、町では、子育て支援に関しての「子育て支援ハンドブック」の配布をはじめ、「町長と語るつどい」の冊子をすでに各戸に配布済みである。

2. 協議事項

(1) 計画素案について

【事務局による説明】

副会長：今の説明で何か意見はないか。

委員：42ページの予防接種について、平成26年10月から水痘も加わるので追加してほしい。

委員：0～17歳を子どもとしているのはなぜか。33ページの表が見にくく、数字が何を表わしているのかわからない。また、人口推計をどのような方法で行ったのか、説明を加えてほしい。

⇒事務局：児童福祉法における児童の定義が18歳未満のため、この区分としている。17歳というのは4月1日現在の年齢であるため、高校生までが含まれる。表の数字は年齢を表している。0～17歳ということになるので、表の数字に「歳」を加えて対応したい。人口推計の方法については、説明を加えたい。

委員：就学前から高校生を、色分けしてわかりやすくグラフ化してほしい。

委員：0歳が、1年経って1歳になった時に数字が変わるのはどうしてか。

⇒事務局：過去の実績に基づく変化率を使って推計した結果である。数字が変わるのは、転入・転出等を一定考慮したことからである。

委員：人口推計をどのような方法で行ったのか、説明を加えてほしい。

⇒事務局：対応を検討したい。

委員：次世代の時と表現を変えていると思うが、単なる言葉遊びにならないよう確認していかなければならないと思う。

⇒事務局：次世代から引き継いでいるので、委員の皆様から案をいただければありがたい。

委員：全国的にこの計画が策定されていると思うが、京丹波町らしさはどこにあるのか。

⇒事務局：目標指標が重要になると思う。今後も検討していきたい。

委員：41ページ、47～51ページ、53ページにおいて、表現を統一してほしい。20ページの表からは何が得られるのか、もっとアピールしてほしい。質の高い保育に「教育」を加える。「育む」はひらがな表記で統一してほしい。アンケート結果からも、良い教育が行われている幼稚園を望まれていることを読み取ってほしい。

委員：43ページにおいて、本年度に食育推進計画を策定しているので加えていただきたい。

委員：33ページに関して、後でもう一度、人口推計について教えてほしい。

委員：具体的な取り組み事業についての内容が記述されていないのでわからない。もっと具体的な表現をしないとイケないのではないかな。

⇒事務局：前回の会議において、計画の構成案について審議いただき、次世代計画のスタイルではなく、評価しやすい今回の構成パターンに決定しているため、この構成になっている。そこをまた次世代に戻すということになると、内容がまったく変わることになる。

委員：私も出席していて確かにそういう決定であったと確認はしているが、具体的な取り組みについては、一行だけでも入れていただきたい。

副会長：パターンは前回決定しているので、これから変えることは難しいと思うが、今のご意見も検討していただきたい。

⇒事務局：別冊で事業内容の説明をつけるということもあるかとは思ふ。

委員：情報提供体制の充実と書かれているところを、もう少し具体的な説明に変えるなどの対応でよい。別冊までは不要であると思う。できる範囲でやってほしい。

⇒事務局：京丹波らしさも入れつつ、事業内容がわかる言葉も織り込みむよう検討していきたい。

委員：53ページの現状と課題で、児童の養育が困難な家庭という箇所がある。これは児童の貧困という言葉をやや柔らかい表現にしていると思うが、児童の貧困は注目されているところで、重要視してほしい。児童の貧困対策としては、児童手当等になるかと思うが、貧困によって学校に行けない子どももいるので、そういうことを表現して対策を取り入れてほしい。例として、52ページの「協働のまちづくり事業」も内容がわかりづらいので表現をもっと具体的にしてほしい。51ページの「病後児保育」の実施は明記してほしい。

⇒事務局：貧困に関することは対応していきたいし、病後児保育に関しては5年後の実施に向けて検討していきたい。

委員：子どもの貧困に関してであるが、育英金の支給に関して、京丹波町は奨学金を貸与ではなく、支給している数少ない自治体である。しかし、支給要件の中に公共料金の未納があつてはならないという要件があるのは、全国105市町村の中で5市町村しかない。こういったことも考えていかなければならない。ファミサポ料金については、ひとり親家庭や障害を持つ子どもさんを養育されている家庭に対する補助等も盛り込んでいく必要があるのではないかと考えるので、具体的な取り組みとして追加していけたらと思う。

委員：ひとり親家庭であり、育英金はとても助かった。現在は、ひとり親関係なく、4人が子育て家庭のサポートをしているし、今回、一般の方も子育て支援の資格を取っていただくことになり、支援体制ができています。保健所に届出がなければサポートができないので、そういうサポートもあるということを知っていただくといいと思います。

委員：親として、京丹波町はサポートが手厚いと感じています。より良い内容になればと思う。

委員：アンケートの結果が反映されているのか。アンケートで課題が見えたのに、それに対しての施策が反映されていない。

委員：アンケート結果からは、小児医療の充実が必要となっている。救急医療の体制を早急に考えてほしい。計画にも加えてほしい。

⇒事務局：子どもの貧困に対しては検討していく。アンケート結果に関しては、できるとは断言できないが、住民のニーズがそこに向いていることが伝わるようにする。

委員：目標指標が入ると、ある程度具体的なこともわかるのではないかな。次回出てくるのかな。

⇒事務局：今後精査していくが、委員の皆様からも、個別に意見をいただけるとありがたい。

(2) 幼稚園及び保育所のあり方について

【事務局による説明】

会 長：「下山分園の存続について」「認定こども園への対応について」「施設老朽化への対応について」の3点に分けて、説明いただいた。本日すべて審議して決めないといけないのか。

⇒事務局：すべてではなく、一つでも決めていただければと考えている。

会 長：委員の方から、それぞれ1番から順に意見をいただきたい。

委 員：審議会なので、ここで決まった方向性が重要となる。お金の問題を抜きにして、子どものことを考えた上で意見をもらいたい。下山分園は廃園、上豊田は改修とし、認定こども園にはせず、幼稚園と保育園は別々にしておき、保護者が選べる方が良い。どちらも老朽化施設は新築してもらいたい。

委 員：下山分園は廃園とし、認定こども園をつくるべきである。

委 員：下山分園を廃園とは言い難い。認定こども園は、短時部の人が幼稚園に行きたいが利用できないからなのか、理由を明確にするべきである。認定こども園になることが良いかどうかを選ぶ材料をもっと提示してほしい。

⇒事務局：町内の子どもたちに同じ教育・保育を受けさせるのであれば、認定こども園になることが良いと考える。

委 員：金銭面を抜きにして議論できるのか、三つの問題は一つとして考えるべきではないか。

委 員：スクールバスが通っているのかどうかかわからないが、目立った保護者の意見がなければ、現状から下山分園は廃園も仕方がないと思う。事務局の説明であったように、それぞれのメリットを考えると、幼保連携型認定こども園が方向性としては良いのではないか。

委 員：認定こども園が良いと思う。小さい施設を二つ作るより、大きい施設を一つ作るほうがいい。下山分園は廃園と考える。

委 員：地域のニーズは考慮しなければいけないと思うが、現地踏査してみて、下山分園は耐震補強工事をしてでも存続は無理だと思ってしまうので、廃園にしてはと考える。認定こども園は設置の方向で、老朽化の対応については、もう少し議論して保護者の意見を取り入れてはどうか。

委 員：ハード面として、老朽化や耐震化の問題を第一に考えるべきである。保育所と幼稚園を一つにする方法もある。ソフト面やお金の問題もあるので、もう少し議論してから検討してはどうか。現場としても、保育士の確保など具体的なことを検討している状況である。

委 員：欠席された委員のご意見をお伝えすると、「幼稚園と保育所という選択肢を残してほしい。現在、幼稚園では月額7,000円で質の高い教育を受けさせていただいているのに、保育料が所得に応じてとなると上がる。幼稚園に行かせているのは、子どもと一緒に過ごす時間を大切にしたいからなのに、認定こども園になるとそれもいなくなるのではないか。認定こども園の園長資格についても教えてほしい」。次に、私の意見としては、建物を建てる前に中身をどうしていくかが大事である。就学前教育は成人にまで影響し、ものすごく大事である。就学前教育が学力にも影響する。そのためには、職員の研修の時間も必要であるし、認定こども園になっても必要である。近隣の認定こども園は、保育園と幼稚園でクラスが分けられているが、その場合、幼稚園の教諭が研修を受けることになり、そういう捉え方をするとクラスが変わってしまう。そういう細かいことをきっちり決めてから協議すべきではないか。保護者の意見も聞くべきである。教室をどう使うかを決めてから

建物を建てる話をするべきであるし、十分協議したうえで考えるべきである。

委員：認定こども園の仕組みを、審議会委員が共通認識として持つべきである。一つの地域で幼稚園と保育所があるということが望ましいのであれば、認定こども園が共有の施設として良いと思う。内容をもう少し詰めて考えるべきである。

委員：少人数よりも大人数での教育に賛成である。下山分園は廃園とし、先行事例となる実際の認定こども園の話聞いて判断していきたい。

委員：老朽化した施設に関しては、現在通っている子どものことを考えて、改修なり、建て替えなりを早くしてほしい。保護者の知識不足もあるので、幼稚園と保育所は残し、選択肢はあったほうがいい。安全な環境という点から、建て替え時には場所も考えて建設してほしい。用途も決めてから建てるべきである。

会長：京丹波町の学力が高くない理由として、集団が小さいことが一因として挙げられる。集団意識が低い。これらの問題を解決するためにも、地域や施設のエゴは一蹴して、子育てがしやすい町になるためにはこれからの子どもたちの最善のことを考えるべきである。既存の概念を捨てるべきである。それが審議会の役割である。検討の時間のデッドラインのような逆算を事務局にお願いしたい。あと、このデータを基に作ったと見えるようにしてほしい。

(3) その他

⇒事務局：次回は11月中旬の開催を予定している。

【副会長による本日の会議のとりまとめ】

閉会